様式第３号

# 事務事業評価表（平成２６年度）

| 事業コード | 1045 | 課コード | 1503 | 会計種別 | 一般会計 | 予算の種類 | ■政策　■経常　□なし |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

## １．事業の概要(PLAN)

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| (1)事業概要 | ①事業名 | 基本事業 | 確かな学力の育成 | 実施計画への位置づけ | ●有　○無 |
| | | 個別事業 | 国際理解教育の推進（ＡＬＴ） | ②部課名 | 教育総務部・指導課 |
| | ③事業主体 | ●市　○その他（　） | | ④対象地区 | □我孫子　□天王台　□湖北　□新木　□布佐　■全市 |
| | ⑤事業期間 | 平成３年度　～ | | ⑥担当職員数 | 4 人　（換算人数　0.44 人） |
| | ⑦事業費（人件費含む） | 総事業費 | 58,807 千円 | 当該(開始)年度 | （当　初）57,757 千円　（うち人件費　4,092 千円）<br>（変更後）千円　（うち人件費　千円） |
| | ⑧施策の位置づけ | 施策コード | 43102 | 重点プロジェクトへの位置づけ | 重点なし |
| | | 基本計画地区別計画への位置づけ | ○有　●無 | 部門別計画への位置づけ | （計画名） |
| (2)目的 | 施策目的・展開方向 | 市民の国際理解の促進や国際感覚を備えた市職員を育成するため、講座や教室などを開催し、国際化対応能力の向上を図ります。また、学校での授業や地域での体験イベントなどを通して、子どもたちの国際化対応能力の向上を図ります。 | | 事業目的 | 児童・生徒に対して、体験的に英語を学習できる授業を展開し、英語学習に対する興味関心を高める。 |
| (3)事業内容 | 内　容 | 英語に興味関心を持ち、積極的に英語を活用しようとする児童生徒を育成するために、ＡＬＴ（外国語指導助手）を市内全小中学校に派遣し、学級担任や英語科教員と協力して英語活動及び英語授業を展開する。また、現学習指導要領で，小学校高学年に週１時間の英語活動が導入されたことにともない、質の高い授業をおこなうために、母語話者であり、日本での英語指導経験のあるＡＬＴを活用し充実を図る。市内小中学校に在籍する外国からの子どもたちの中で「日本語を理解することが困難な児童・生徒」に対し、有意義に学校生活が送れるようにするために、日本語指導者を派遣する。 | | 当該年度執行計画 | 市内全小中学校に、ＡＬＴを派遣し、小学校５・６年生及び全中学生が、ＡＬＴと学級担任や英語科教員による協同授業を、週１時間受けられるように計画する。あわせて、小学校の英語活動と中学校の英語学習の小中連携を円滑に推進するために、中学校区ごとに小学校間で派遣時数に差が出ないよう配置する。また、市の英語・英語活動小中一貫カリキュラムに基づいて、小学校4年生以下でも、学校の取組の時間に英語学習を実施する。日本語指導は、児童・生徒が日本の生活に慣れ、不安なく日常の学習が受けられるようにするためには、欠かすことのできない事業である。 |
| | | | | 当該年度活動結果指標 | ＡＬＴの年間のべ勤務日数　単位：日　想定値 2,160　実績値 |

| (4)達成目標(期待する成果) | 達成目標(期待する成果) | 指標種類 | 指　標 | 単位 | (5)現況値 | (6)目標値 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 当該(開始)年度 | 英語に興味関心を持ち、積極的に英語を活用しようとする児童生徒を育成する。 | 直接 | ＡＬＴの年間のべ勤務日数 | 日 | 2,141 | 2,160 |
| ３年後 | 英語に興味関心を持ち、積極的に英語を活用しようとする児童生徒を育成する。 | 直接 | ＡＬＴの年間のべ勤務日数 | 日 | 2,141 | 2,376 |
| 最終(概ね５年後) | 英語に興味関心を持ち、積極的に英語を活用しようとする児童生徒を育成する。 | 直接 | ＡＬＴの年間のべ勤務日数 | 日 | 2,141 | 2,376 |

| (7)事業実施上の課題と対応 | 代替案検討 |
|---|---|
| 小中連携のためにＡＬＴが同じ中学校区の小学校で教えること、小学校間でＡＬＴの派遣日数が同等になることが望まれるが，中学校区で連携ができていない小学校があること、ＡＬＴの派遣日数に差があることが課題である。 | ○有　●無 |

(8)施行事項

| | 平成２５年度 | | 平成２６年度 | | | 平成２７年度 | | 平成２８年度 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 政策 内容 | 金額(千円) | 政策 内容 | 金額(千円) | 実績値(千円) | 政策 内容 | 金額(千円) | 政策 内容 | 金額(千円) |
| 実施内容 費用 | ３号嘱託（ＡＬＴ）報酬 | 39,376 | ３号嘱託（ＡＬＴ）報酬 | 40,220 | | ３号嘱託（ＡＬＴ）報酬 | 44,000 | ３号嘱託（ＡＬＴ）報酬 | 44,000 |
| | ＡＬＴ共済費（保険 | 6,928 | 共済費 | 6,983 | | ＡＬＴ共済費（保険 | 7,640 | ＡＬＴ共済費（保険 | 7,640 |
| | ３号嘱託（ＡＬＴ）費用弁償 | 1,342 | ３号嘱託（ＡＬＴ）費用弁償 | 1,209 | | ３号嘱託（ＡＬＴ）費用弁償 | 1,365 | ３号嘱託（ＡＬＴ）費用弁償 | 1,365 |
| | ＡＬＴ消耗品等 | 100 | ＡＬＴ消耗品等 | 100 | | ＡＬＴ消耗品等 | 110 | ＡＬＴ消耗品等 | 110 |
| | ＡＬＴ負担金 | 253 | 日本語指導謝金 | 540 | | 日本語指導謝金 | 540 | 日本語指導謝金 | 540 |
| | ＊ 日本語指導謝金 | 600 | 旅費 | 10 | | 旅費 | 10 | 旅費 | 10 |
| | | | ＊ ３号嘱託（ＡＬＴ）報酬 | 3,780 | | | | | |
| | | | ＊ 共済費 | 657 | | | | | |
| | | | ＊ 費用弁償 | 156 | | | | | |
| | | | ＊ ＡＬＴ消耗品 | 10 | | | | | |
| 予算(済)額 | 合　計 | 48,599 | 合　計 | 53,665 | | 合　計 | 53,665 | 合　計 | 53,665 |
| 国庫支出金 | 補助率 0 % | 0 | 補助率 0 % | 0 | | 補助率 0 % | 0 | 補助率 0 % | 0 |
| 県支出金 | 補助率 0 % | 0 | 補助率 0 % | 0 | | 補助率 0 % | 0 | 補助率 0 % | 0 |
| 起債 | 充当率 0 % | 0 | 充当率 0 % | 0 | | 充当率 0 % | 0 | 充当率 0 % | 0 |
| 一般財源 | | 48,599 | | 53,665 | | | 53,665 | | 53,665 |
| その他の財源 | □特会 □受益 □債務 □基金 □その他 | 0 | □特会 □受益 □債務 □基金 □その他 | 0 | | □特会 □受益 □債務 □基金 □その他 | 0 | □特会 □受益 □債務 □基金 □その他 | 0 |
| (10)人件費等 換算人数(人) | | 0.59 | | 0.44 | | | 0.44 | | 0.44 |
| 正職員人件費 | | 5,487 | | 4,092 | | | 4,092 | | 4,092 |
| 嘱託職員報酬額 | | 0 | | 0 | | | 0 | | 0 |
| 臨時職員賃金額 | | 0 | | 0 | | | 0 | | 0 |
| 事業費(予算(済)額＋正職員人件費) | | 54,086 | | 57,757 | | | 57,757 | | 57,757 |
| (11)単位費用（事業費／活動結果指標） | | 25.04千円／日 | | 26.74千円／日 | | | | | |

## ２．事業の評価(DO+CHECK)

| 評価項目 | 事　前　評　価 | 事　後　評　価（評価結果に応じ、改善案検討（拡充も含む）） | 改善検討 |
|---|---|---|---|
| 必要性 (1)事業が今必要である理由・背景は？(事業の必要性) | 時代の変化にともない国際化が進展していく中で、学校における国際理解教育の重要性はますます高まっている。平成２３年度から、小学校において新学習指導要領に沿った教育課程が実施され、高学年での英語活動が週１時間行われている。また、その内容と、中学校の英語教育との円滑な接続の在り方を吟味し、充実した学習環境を整備するとともに、指導に当たるＡＬＴの質を常に高める必要がある。 | ○①事前確認での想定どおり<br>○②事前確認での想定どおりでなかった<br>＜想定どおりとした理由／想定どおりでなかった原因＞ | ○要<br>○不要 |
| 必要性 (2)市が実施する必要性はあるか？（市実施の必要性） | ○①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できない<br>（理由）□法令等で市が実施することが定められている<br>□提供主体が市しかない<br>□その他<br>＜その他の内容＞<br>●②自治体である市が推進すべきである<br>（理由）■市が主導で進めることにより実効性が得られる<br>■市が実施・提供することにより、良質で安定したサービスが保証される<br>■市が支援することにより政策・施策の目標の実現が図られる<br>□その他<br>＜その他の内容＞ | □①民間企業、ＮＰＯ、市民団体等では実施できなかった<br>□②市が主導で進めなければ実効性がなかった<br>□③市が先導役となったことで市民へ普及が一層促進された<br>□④市の支援が政策・施策の目標の実現に貢献した<br>□⑤サービス水準が確保された<br>□⑥サービスの安定供給基盤が確保された<br>□⑦その他<br>＜市実施の具体的な内容・必要性の理由＞<br>＜その他の内容＞ | ○要<br>○不要 |
| 参加・協働の工夫 市民の参加や市民との協働を工夫しているか？（体制づくり） | 参加・協働の内容：○①事業計画時に市民の参画有り<br>●②事業実施時に市民の参画有り<br>○③管理・運営に市民の参画有り<br>○④市民の自主的な活動と連携している<br>○⑤市民と共同で事業を実施<br>○⑥その他<br>＜その他の内容＞<br>工夫の具体的な内容：市内在住のＡＬＴを採用することにより、市内の児童生徒や保護者、地域の状況を把握し、連携を図りながら事業を進めている。 | 実施した参加・協働の具体的な内容（又は今後、参加・協働が考えられる場合にはその内容）<br>参加・協働の程度・内容：○①当初期待した以上<br>○②当初期待したとおり<br>○③当初の期待以下<br>＜期待した以上となった理由／期待以下であった原因＞ | ○要<br>○不要 |
| 環境への配慮 環境に配慮して事業を進めているか？ | 配慮の視点：□①自然環境を生かしている<br>□②生き物と共存している<br>■③手賀沼を意識している<br>■④環境負荷低減に貢献している<br>□⑤その他<br>＜その他の内容＞<br>取組む内容：手賀沼をはじめとする我孫子の環境に目を向け、自然環境を大切にする視点を持って児童生徒の教育に務めている。また、電子媒体を多用し、紙の使用数軽減に務めている。 | 実施した具体的な内容<br>環境への配慮：○①想定どおり<br>○②想定どおりでなかった<br>＜想定どおりでなかった原因＞ | ○ 要<br>○ 不要 |

効率性

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| (1)目標設定は適切か？ | 現況値(a)(日) 2,141 | 目標値(b)(日) 2,160 | 目標値の妥当性のチェック：□①客観的なデータ・事実に基づき設定している<br>■②現況値と比べ実現性が乏しい値ではない<br>□③現況値との差が小さい値ではない<br>□④適当な比較対象が有る場合、比較対象例における目標値(と現況値の差)と同等の水準である | 達成状況：実績値(f)(日)　達成率(%)(f/b×100)<br>○①目標値達成<br>○②目標値未達成<br>＜目標を達成した理由／未達成となった原因＞ | ○要<br>○不要 |
| (2)事業費削減の工夫をしているか？ | 対策実施による事業費削減：事業費(c)(千円) 57,757　事業費削減額(d)(千円) △3,671<br>事業費削減率(%) △6.79 | 実施予定の対策：□①国・県助成制度活用　□⑤ＰＦＩ等民間資本の活用<br>□②現有体制での対応　□⑥受益者負担<br>■③維持管理費の削減策の実施　□⑦その他<br>□④民間委託<br>＜削減の内容＞ | 実施状況：実績値(g)(千円)　対事業費(%)(g/c)×100<br>○①想定事業費未満<br>○②概ね想定事業費以内<br>○③想定事業費超過<br>＜超過理由等＞<br>事業費の削減対策について：○①事前の想定どおり<br>○②事前の想定どおりでなかった<br>＜想定どおり削減できなかった原因＞ | ○要<br>○不要 |
| (3)目標値を実現する為に投じる事業費は適正か？（目標対費用） | 目標値対事業費(e) 3.74　単位：日　費用単位：10万円 | 計算方法：●①単年度の指標：目標値×費用単位／事業費<br>○②複数年度の指標：(目標値－現況値)×費用単位／事業費 | 達成状況：実績値(h)　対目標値(%)(h/e)×100<br>○①目標値以上<br>○②目標値と同程度<br>○③目標値以下<br>＜目標値以上となった理由／目標値以下であった原因＞ | ○要<br>○不要 |

## ３．事後評価

○現状どおり推進　○拡充　○縮小　○結合　○休止　○廃止　○事業手法見直し　○その他(事業完了など)

| 評価 | 評価コメント | 改善策及び展開方向 |
|---|---|---|
| | | |